

広い視野サイズのフラットパネル検出器を搭載した
透視撮影システムシリーズの第2弾、「meditesCREA」の発売

2003年2月5日

各位

株式会社 日立メディコ
取締役社長 猪俣 博

広い視野サイズのフラットパネル検出器を搭載した
透視撮影システムシリーズの第2弾、「meditesCREA」の発売

(株)日立メディコ(本社所在地:東京都千代田区、取締役社長:猪俣博、資本金 138 億 8 千 4 百万円)は、広い視野サイズを歪みなく透視・撮影できるフラットパネル検出器(Flat Panel Detector:以下、「FPD」と言う)を搭載し、消化管検査、非血管系 IVR を得意とするオーバーチューブ型 X 透視撮影システム「meditesCREA」(メディテス クレア)を発売しました。

※IVR: 診断及び治療を行う手技(Interventional Radiology)のこと。X 線透視下でカテーテル操作などにより行われます。

※オーバーチューブ型: 被検者の上方に X 線管球があり、下方に受像面のある形のことです。

※Medites: 天板が昇降するタイプの日立透視撮影システムのシリーズ名です。

※CREA : Creare(創造;ラテン語)+Clear(鮮明な)からなる造語です。

1. 開発の経緯

当社では、本装置の発売に先立ち、FPD を搭載したデジタル X 線多目的イメージングシステム「VersiFlex」(バーシフレックス)を 2002 年 9 月に市場投入しております。この装置は、C アーム型の透視撮影システムであるため、多方向から撮影ができ、血管系 IVR を得意としますが、これに対し、非血管系 IVR や消化管検査などをメインに行う FPD を搭載したシステムの開発が強く望まれていました。

本装置は、オーバーチューブ型でワークスペースが広く、患者へのアクセスが容易になるため、内視鏡検査等の非血管系 IVR や注腸検査など、患者の上方に広いスペースが必要になる検査を得意とします。また、患者の体位変換が容易になり、消化管検査にも有用です。

「VersiFlex」に続き「meditesCREA」がこのたび発売されたことにより、幅広い顧客の要望に応えることが可能になりました。今後、FPD 搭載機種を順次増やし、透視撮影システムのシリーズをさらに充実させていく予定です。

※ 消化管検査: 食道+胃、または大腸の透視、撮影検査のことです。

※ 注腸検査: バリウムと空気を使って、大腸を調べる検査です。

2. 本装置の主な特長

- 1) FPD の視野サイズが約 40cm×30cm と広く、かつ周辺部の歪みのない良好な画像が得られるため、診断能が向上するとともに撮影部位の位置決めが容易になり、検査時間を短縮します。
- 2) 天板を床面から 49cm まで下げることができるとともに、その高さでの透視・撮影が可能であるため、緊急時には被検者が天板に乗った直後に検査を行うことができます。また、術者や介添者が装置の横に座った状態での検査も可能です。
- 3) 天板部を立位+90 度、逆立位-90 度動かすことができるため、被検者の向きに関わらず同様に検査することが可能となり、術者は左右どちらからのアクセスも同等に行えます。
- 4) X 線管球から受像面までの距離を 100cm~130cm の範囲で設定できることから、ワークスペースを広く確保できます。
- 5) 従来のシステムで高い評価をいただいた、撮影したデジタル画像を診断目的に合わせてリアルタイムで自動最適化できる「表示階調自動設定処理(オートガンマ)」を、FPD 用に改良し搭載することで、FPD の特長を最大限に引き出せます。

3. 発売時期 : 2002 年 12 月
4. 価格(標準システム) : 1 億 6,000 万円
5. 初年度販売予定 : 約 20 台

【このニュースのお問い合わせ】

株式会社 日立メディコ 総務部 広報担当:西田、杉原 製品担当: 小田

〒 101-0047 東京都千代田区内神田一丁目1番14号(日立鎌倉橋別館)

TEL 広報担当 03-3291-6391

製品担当 04-7131-4163